

科目区分：専修別専門教育科目（美術）

授業科目名：日本美術史

## 地域における美術作品を通じて、日本美術史を学ぶ

美術教育専修 上原真依

### I. 授業の概要

「日本美術史」は、学校教育教員養成課程 2・3 年生を対象とした、美術中等免許（一種・二種）のための必修科目である。本年は、学校教育教員養成課程 6 名（2 年生 4 名、3 年生 2 名）、特別支援教育教員養成課程 3 名（2 年生 2 名、3 年生 1 名）、芸術文化課程音楽文化コース 2 名（いずれも 4 年生）の計 11 名が受講した。

#### 1) 授業目的

- ・仏教美術を概観し、その特色を理解する。
- ・時代ごとの文化背景を踏まえて、造形表現との関連性を考察する。

#### 2) 到達目標

- ・日本の美術作品を的確に視る能力を高める。
- ・日本美術の基本的な流れを掴み、各時代・流派の様式を理解する。
- ・作品の機能や制作当時の社会的・文化的背景など、観賞教育に必要な基礎的知識を獲得し、美術作品を歴史的背景との関連性から考察する術を身につける。

#### 3) 関連するディプロマ・ポリシー

造形芸術全般にわたる確かな知識と、得意とする分野における高度な専門的知識を修得している。（知識・理解）

造形活動などの自己探求を継続する中で課題を明確にして、主体的・自律的な学習ができる。

（関心・意欲）

#### 4) 今年度、特に意識して取り組んだこと

美術作品を正しく理解するには、まず本物を実際に見ることが重要である。しかし、首都圏や関西と異なり、愛媛県下では仏教美術に接する機会も限られている。

作品を実見することは、作品の面白さに気づき、作品を積極的に読み取る姿勢を育む基本である。実物を見て作品について考え調べる習慣を獲得すれば、授業時間外のみならず生涯にわたり美術作品を学習し続けられることは言うまでもない。また、中学歴史や高校日本史の教科書にも数多く登場する仏教美術作品の見方を身につけることは、他教科の指導にも役立つため、実際に作品を見て考えることが重要とな

る。そこで本授業では、実作品を見ることへの関心を高めることを意識し、見学の機会を設けることとした。特に 2018 年度は、美術史に初めて触れる美術専攻以外の受講生も多かったことから、できるだけ楽しみながら仏教美術を学べる場として、善通寺（香川県）を選出した。善通寺宝物館の国宝《金銅錫杖頭》は残念ながら非公開であったが、《吉祥天立像》（平安時代、木造）《毘沙門天立像》（平安時代、木造）、《阿弥陀如来立像》（鎌倉時代、銅造）、《五大明王像》（江戸時代、木造）など、時代や素材、モデルが異なる作例を見ることができると、授業で習った仏像の見分け方や素材の違いを実感できると考えたからである。

#### 5) 授業方法、形態、内容の概要

本授業は先述した取り組みを踏まえ、①教室で作品実見に役立つ仏教美術の基礎知識を学習すると同時に、②善通寺（香川県善通寺市）の見学実習を行った。

##### ① 仏教美術入門編と代表作例

見学実習で実見できる仏像は、江戸時代の作例数が最も多いが、平安時代の《吉祥天立像》などの特徴および技法を正しく理解するためには、仏教美術に関する基礎知識と日本における仏像の変遷を学ぶ必要がある。そこで、仏の種類（如来・菩薩・明王・天）ごとの特徴を紹介しながら、仏像の技法、代表作例を紹介した。

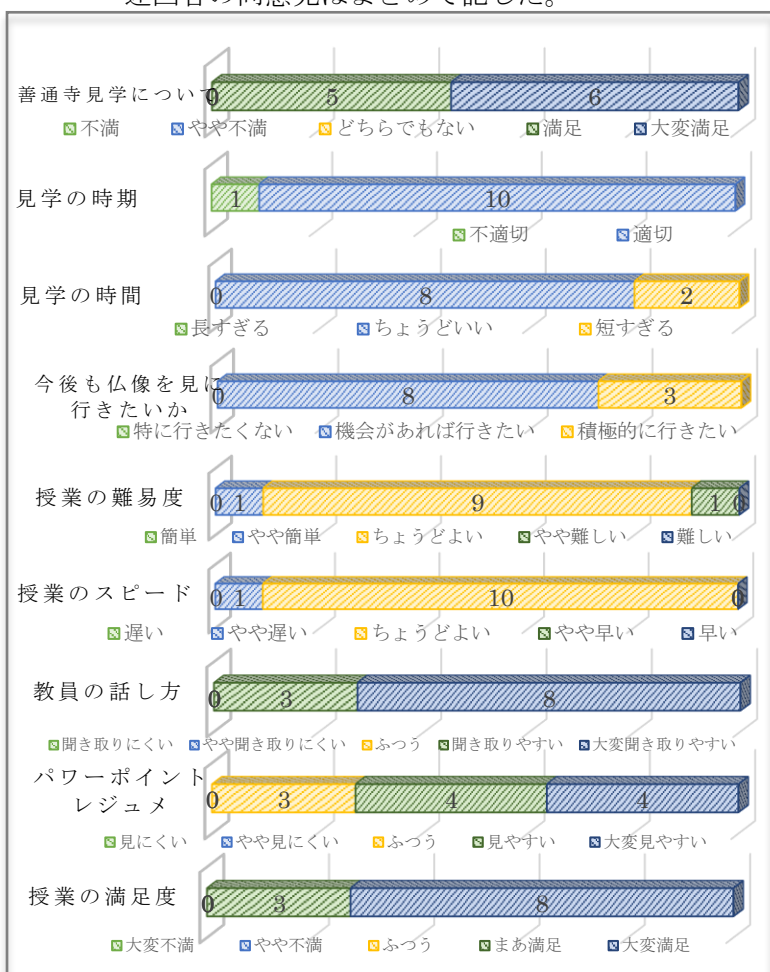
##### ② 善通寺（香川県善通寺市）の見学実習

見学のメインとなるのは、善通寺宝物館が所蔵する平安～江戸時代の 10 体ほどの仏像である。特に《吉祥天立像》（国重要文化財）は、四国においては珍しい残存状態も良好な平安時代の作例であるため、この機会を最大限に活かすべく準備を進めた。なお、準備段階では香川県高松市の屋島寺が所蔵する《十一面千手観音坐像》の見学を予定し下見をして準備を進めたが、2 週間前に見学お断りの連絡が来たため、急遽見学先を平安時代の仏像を所蔵する善通寺に変更した。見学後は自由に敷地内を見て回り、寺社空間と仏教美術を体感できるようにした。見学日については第 1 回にアンケートを行い、

受講生の都合を聞いたうえで、12月15日（土）に実施した。（なお、積雪など天候の心配から、1月の実施は候補から外した）。善通寺までの往復には報告者が手配した大型バスを利用した。また、日本美術史以外にも、工芸概説の受講者およびアートと社会の受講者からも参加者を募り、計36名でバスを利用したため費用を安く抑えることが可能になった。

## II. アンケート結果

アンケートは独自の質問項目で第15回授業終了後に無記名式で実施した。質問は選択式10項目と、自由記述式3項目で、11名が回答。集計結果は下の通り。なお紙面の都合上、自由記述回答の同意見はまとめて記した。



[善通寺見学実習について] (自由記述)

- ・自分では行けない場所だったので (3名)
- ・戒壇めぐりが印象的だった
- ・時間が足りなかった。内容はよかった。
- ・金銭的には辛いよかった
- ・楽しかった (3名) ・少し遠かった
- ・ゆっくり見学できてよかった (2名)

[授業内容について] (自由記述)

- ・映像があるので雰囲気想像できた

- ・真っ暗だとメモが取りにくい (3名)
- ・授業での情報を活用して仏像をこれからも見たい
- ・内容はわかりやすかったが、進度が遅い気がした
- ・仏像に対して興味をもてた
- ・実際に見るのと写真では全く違ったので、いろいろ見に行きたいと思った
- ・実際に仏像を見ることで、学んだ知識を活かせる実感が湧いた

## III. 総括

1) アンケート結果を踏まえた、次年度への改善点

今年度は、初めて5時間目の開講となったため、スライド写真が陽光で飛んでしまうことは無くなり仏像写真をキレイに見せることができた。一方で教室が暗いためにメモが取れないという声も上がるようになったのは反省点である。今後はポータブルライトの使用などでメモとパワーポイントとの共存を図りたい。また、例年第1回の授業時に見学実習日を決めるアンケートを実施しているが、特別支援教育の学生は教育実習中のために別途メールで回答をお願いする必要があった。授業開始後にアンケートを取ると開催まで余裕が無いことから、今後は授業開始前の事前アンケートの導入を検討したい。

2) 授業の目的、到達目標、関連DPを踏まえた総括

アンケートおよび見学実習に関する取り組みから、授業の目的や関連DPの(知識・理解)(思考・判断)はほぼ達成できていると考える。特に実物を見て思考する楽しさに気づき、美術作品への関心を高められた学生は多かった。今後も作品を実際に見る機会を自ら設定し、楽しみを見つけられるような取り組みを考えたい。

### 3) 地域を核とした教育と研究のつながり

報告者の専門はルネサンス期の西洋美術史であり、特に15世紀のイタリア・マルケ地方において祭壇画がどのような社会でどう受容されていたかを研究している。美術館で「作品」として観ると忘れがちだが、美術作品と作品が受容された社会を切り離すことはできない。これは日本美術史の作品においても同様である。本年度は弘法大師ゆかりの善通寺を見学したが、人々が込めた願いを仏像から読み取ろうとした学生も多く、美術作品と社会の繋がりを実感しやすかったと思う。まさに地域における作品とその受容のあり方を核とすることで、学生も作品をより身近なものとして考察することができた。今後もこうした地域の作品見学を活用した授業を、実施していきたい。